

にこうすつぎに兩所酒饌をもて男女房にたまふ夜に入て侍臣唱歌し管絃を奏す又高光永頼に花の枝にゆひつくりところの和歌をとりてよませられけり公卿侍臣に仰てうたを奉りけり右大將延光朝臣ぞ題をば奉りける十五夜翫後庭秋花とぞ侍ける深更に及で侍臣和歌を奉る保光朝臣をしてよませられけりさらに又管絃の興ありて其後公卿に祿を給はせけり

〔源順集〕ある所の前裁合の歌の判ある所に男女かたわきて御前の庭のすゝき萩、まらに、まをに、くさのかうをみなへし、かるかや、なでしこ萩などうゑさせ給ひ、松虫鈴虫をはなせ給ひて、人々にやがてその物どもにつけて歌を奉らせ給に、おのが心々に我もくゝとあるは山里の垣ねにさをしかの立よりあるはかぎりなきすはまの礎づらに、あしたづのおりゐるかたをつくりて、草をもおほし、虫をもなかせたる、仰ごと、て、花の有様むしのすがた、いづれもくゝいとをかしかめり、歌のおとりまさりは、さだめでやはあるべき、たれしてかさだめ申さすべきと仰給に、これかれまうす、さきのいづみのかみ源順朝臣なん、おほやけには梨壺の五人がうちにめされ、宮にはおもと人八人がうちにてさぶらひし人也、これをめしてこそさだめられんに、よろしからめと申によりて、かねて其事とはなくて、こよひすぐすまじきまめごとなんあるとてめしたり、かみのつかさ、たゝすつかさのおほいすけたち、こなたかなたにさぶらひ給ひ、かゝの椽橋のまさみちによみあげさせ、順朝臣にことわらせ、學生ためのりに今日のことをかきおかせ給ふなかに、ためのりなん源といふ人にもあらず、千種に匂ふ花のあたりにはもぎ木のやうにて、まじりにく、侍れども、やんごとなくさぶらふべき、みやまのふもとよりおひ出たる草のゆかりにて、仰ごとのいなびがたさに、みづぐきして書えるして奉りおく、其歌ども順朝臣さだめ申さる處かくなん、○中略天祿といふ年はじまりて、みとせの秋の半、長月のまもの十日に、今二日おきて、大井にての事なり、○又見古集今著聞集